

SAPPORO 教区 NEWS

第38号

2022年7月25日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10Tel.011-241-2785 / ホームページ : <http://www.csd.or.jp>

シノドスに向けての歩み 「札幌教区の回答」を受けて

勝谷 太治 司教

6月にシノドスに向けての10の設問に対する教区としての回答がまとめられ中央協議会事務局へ送付されました。これをもって第一段階の教区フェーズが完了します。コロナ禍にあつて集まるのが難しい中、皆さんの協力を感謝いたします。しかし、かねてからお知らせしている通り、これをもって各小教区のシノドスに向けての歩みが終了するものではありません。この結果を受けてそれぞれの地域共同体が何を選択するかが問われています。その作業が始まるのです。そして、それぞれ、今回のシノドスの大切なポイント、各地方教会がシノドスに向けての歩みの過程を共有する、「ともに歩む教会」を具現化する試みなのです。

アンケート結果のまとめはすでに各小教区に送られているのでそれをご覧いただきたいと思えます。回答のポイントは10の項目として与えられていましたが、皆さんへの願いは一つ一つの設問にとらわれることなく、聖霊の導きにゆだねて分かち合いが深められることに留意することをお願いしました。結果、教区としてのまとめは10の設問に沿ったものにはなりませんでしたが、それぞれの小教区の現状が見えてきました。



コロナ禍ということもあり、ミサや祈り等の典礼の大切さが再認識されたという報告が多く見られました。さらに今回分かち合いを通して回答するようにお願いしたこともあり、信仰を伝え、深め、支えあい、ともに歩む教会となるために「分かち合い」が非常に大切であることも強調されています。さらに**外国籍信徒との交わり、教会内の男女格差、教会を離れている人々への声掛け、さらに助けを求めている人々へ耳を傾ける姿勢、地域社会との関係**、等々。それぞれが大切なことです。ただ教区のとめとしては当然ですが、予想された課題を網羅する形になっています。皆さんにお願いしたいことは、このまとめをもって安心してしまおうのではなく、もう一度各小教区の回答と照らし合わせ、自分たちが何を求めるよう求められているのかを話し合い、識別して具体的なプランを選定していただきたいということです。まもなく、日本の教会としてのまとめも発表されます。これを教区のとめ、小教区のとめと照らし合わせ、課題を再確認することや、新たな気づきを得て、これを実行していただくようお願いいたします。これから各小教区のシノドスの歩みの始まりなのです。

教区シノドスのまとめにかかわって

殉教者聖オルギオのフランシスコ修道会

Sr.宮崎 妙子

2023年のシノドス開催についてカトリック新聞で読み、他人事のように読み過(こ)していたら、昨年10月に、勝谷司教から突然指名され、「札幌教区シノドス・チーム」に参加することになりました。チームのメンバーは佐久間神父と旭川地区の荒木関充さん、そして私です。私たちが最初にしたことは、E200グループを作ることでした。デジタル時代ですね。

はたして学校の仕事と両立できるかと不安に思っていたとおり、送られてきたシノドス手引書が30ページ近くあり、呆然としました。さらには意見聴取のためのテーマが10もあり、それぞれ質問項目がいくつもついています。大きな不安を抱えたまま、各小教区にシノドスのための担当者を選出するようお願いして、11月9日にオンライン会議を開きました。会議では、膨大な数の質問項目を簡素化してどうかという提案も出され、これで各小教区で分かち合いのための話し合いができるだろうと胸をなでおろしました。がその矢先、新型コロナウイルス感染再拡大。多くの小教区ではミサができなくなり、分かち合いのための話し合いはさらに難しい状況になりました。

しかし各小教区で工夫を凝らして、お掃除奉仕のメンバーたちを中心に分かち合いを行った共同体、質問票を印刷して教会で配布したり、各家庭に送付したりして回答を得た共同体、あるいはインターネットで回答を得た共同体もありました。各小教区の事情に合わせて現場判断で動いてくだ



札幌教区シノドス・チーム
Sr.宮崎妙子 佐久間力神父 荒木関充氏

さった方々に敬意と感謝を表します。

こうして札幌教区ほぼすべての小教区から得た回答を、シノドスチームの3人で手分けして2〜3ページにまとめ、さらにそれぞれを3人でまとめる作業を行い、4月29日、30日のカトリックセンターにおける、対面とオンラインのハイブリッド形式での教区シノドスに代えた教区宣教司牧評議会の開催に至りました。

今回各小教区からいただいた回答に目を通しながら、私たちは神とともに歩む教会共同体を構成する一人ひとりの声を聞くことができました。まとめ作業の過程で割

愛せざるをえなかったご意見も多々ありましたが、貴重なご意見として、各小教区にお戻りして今後の糧としていただければ幸いです。

最後になりましたが、今回この教区シノドスのためにご協力くださった方々に心からのお礼を申し上げます。シノドス手引書が言っているように、シノドスが終わっても私たちのシノダリティへの模索は続きます。小教区を超えて、さらには教区、国を超えて、これからも共に歩んでまいりましょう。

教区宣教司牧評議会

オンラインで開催

2022年6月25日にオンラインで札幌教区宣教司牧評議会（以下「宣司評」）が開催されました。コロナ禍で、しばらく活動ができなかった宣司評ですが、昨年末から活動が再開され、今回を含めこれまで数回オンラインという形で開催されました。

2022年3月末で各地区すべての評議員が任期を終え、この6月から新しいメンバーでの宣司評となりました。運営委員も新たに

選出され、今回はその顔合わせも兼ねての開催でした。

勝谷司教の挨拶と祈りで開会され、新しいメンバーの紹介、評議員任期についての規約改正についての審議が行われたあと、教区シノドスチームより「札幌教区の回答」最終報告書の提出、今後の歩みについて説明が行われました。

勝谷司教からは、アフター・コロナにおいて、各小教区の歩みをシノドスの歩みと共に進めることで、改めて「ともに歩む教会」を意識しつつ、共同体が前に進めることができるよう力強い言葉が向けられました。（佐久間力）



3年ぶりの全道司祭大会 北広島・クラッセホテル

2022年6月14日、16日の2泊3日、札幌北広島クラッセホテルにて全道司祭大会が3年ぶりに開催された。

参加司祭はリモート4名、現地参加者25名。日本カトリック司教協議会社会司教委員会より派遣講師の山岸素子さんを迎え、テーマ「日本の難民移住者の状況とカトリック教会の取り組み」について講義を受け、それぞれ分かち

合われた。昨今の難民・移住者の日本の現状、法制度の限界と人権を守ることの重要性、教会におけるサポート活動などが紹介された。続いて札幌教区難民移住移動者委員会の西津津さんによる札幌教区内での現状や、ベトナム人技能実習生や留学生などの個別案件などが紹介された。難民移住移動者の



現状の中で、各小教区でのサポートの難しさ、典礼への工夫、個別の支援などが



分かち合いの中でも語られ、今後の札幌教区の難民移住移動者への関わり方や、ともに歩む在り方が問われている中で、何を優先的に行うべきかなど、活発な意見が交わされた。

懇親会はコロナ禍のために最小限に留められたが、そのわずかな時間の中で、改めて2019年の司祭大会以降に帰天された司教・司祭や、道外の転出入された司祭の紹介。金祝・ダイヤモンド祝を迎えた司祭のお祝いも行われた。互いに久しぶりの再会を喜び、少なくなつた司祭団であっても前向きに歩むことを誓い合った時を持つことができた。（松村繁彦）



ダイヤモンド祝

ヒラリオ・シュミット師
1937年6月1日ドイツ・アイラットヘン生まれ。1956年フランシスコ会入会。1962年4月29日司祭叙階（ドイツ・フルダ）1964年来日、砂川・美唄・高宮(福岡)・滝川・羽幌・大町・名寄・枝幸・富良野教会を歴任し、現在旭川修道院。

おひなまつり

金祝

ロマーノ・長尾俊宏師
1942年8月4日美唄生まれ。1964年フランシスコ会着衣。1972年3月18日司祭叙階（北11条教会）。板橋・神居・留萌・北11条・稚内・帯広・名寄・土別・枝幸などを歴任し、現在旭川五条・旭川六条・大町・神居・富良野主任。



カリタス・ジャパン 第3のキャンペーン始まる

- 2013年～2015年 反貧困キャンペーン
- 2017年～2019年 排除ZEROキャンペーン
- 2021年～2024年 総合的エコロジー・ケアに関するキャンペーン【トゥギャザー・ウィー】

カリタス・ジャパンの動きには、大きく二つの流れがあります。一つは援助活動です。皆さんから集まった献金は、国内外に関わらず、献金配布先が適正かどうかを見極め、必要なところに届くように視察を行ったうえで吟味し、また場合によっては国際カリタスの意見を聞いたうえで配布を行います。もう一つは啓発活動です。国内外で叫びをあげている人に目を向け、特に貧困にまつわる諸問題を、ともに「聞き・考え・動く」ために情報を分かち合う活動です。

また、カリタスジャパンでは国際カリタス及び世界各国のカリタスと協同しキャンペーンを展開しています。今年度の（カリタスジャパンの）キャンペーンは、教皇の回勅『ラウダート・シ』と『フラテリ・トゥッティ』を土台に、地球の兄弟姉妹たちに向けて互いに“ケア”をしていくための準備をしていきましょうと呼びかけています。また地球にある天然資源を使用するにあたり、公平を保ち、互いに配慮しながら私たちの家「地球」を守っていくことも唱えられています。テーマは「Together We（トゥギャザー・ウィー）」です。

利益追求や利便性の追求は私たちの暮らしを豊かにしましたが、その陰で多くの弱き人たちや命あるすべての生物が叫びをあげています。遠い兄弟姉妹だけに限らず、私たちの足元にいる兄弟姉妹も見ながら、「何ができるのか」「誰と支えていくのか」。皆様の献金と活動の準備、またそのこと自体の学びによって、地球家族となっていくことが求められています。単なるエコロジー活動だけではなく、私たちの生き方にも影響を与えるキャンペーンを、ぜひとも各地域で理解する機会を設けていただければと思います。

キャンペーンの詳細については、各小教区に

配布されたカリタスジャパン発行「we are Caritas 24号」2022年春号をご覧ください。

札幌教区ではキャンペーンの一環として、8月20日(土)札幌教区カトリックセンターで「考えよう・地球家族」と題し学習会を行います。「地球家族」を災害対応の視点と国際協力の視点から学び、「すべての命を守るため」に次の活動へ繋げていこうというものです。

第一部10～12時「災害に向けた取り組み」パネラー・佐久間力神父（札幌教区災害対策担当司祭）、漆原比呂志氏（カトリック中央協議会ERSTスタッフ）。

第二部13～15時「海外支援と国際協力」パネラー・松村繁彦神父（札幌教区カリタスジャパン担当司祭）、漆原比呂志氏（一般社団法人JLMM事務局長）。

各小教区へメールにてチラシを配信しております。詳しくは所属教会にお問い合わせください。また、ZOOM参加ご希望の方は8月15日までに、お名前・所属教会・Eメールアドレスを付記して office.csd4@gmail.com までお申し込みください。（松村繁彦）

「考えよう 地球家族」

教皇回勅『ラウダート・シ』の目的である地球家族を、災害対応の視点と国際協力の視点から学び、「すべてのいのちを守るため」に、次の活動へ繋げていくことを探りましょう。

日 時：2022年 8月20日(土)
場 所：札幌教区カトリックセンター1階会議室（ZOOM参加可）

- 受付 9:30 開始（参加希望者は9:50までに集まってください）
- 第一部 10時～12時「災害に向けた取り組み」
パネラー 佐久間 力（災害対策担当司祭・ERSTスタッフ）
漆原 比呂志（カトリック中央協議会 ERSTスタッフ）
- 第二部 13時～15時「海外支援と国際協力」
パネラー 松村 繁彦（カリタスジャパン担当司祭）
漆原 比呂志（一般社団法人JLMM事務局長）

2022年度 教区関係機関 担当司祭一覧

◎運営委員長

2022年6月1日現在

委 員 会 名 等		役員・委員名	任期	備 考
宗教法人責任役員		勝谷 太治 司教	3年	地区長 代表役員
		今田 玄五 師		
		祐川 郁生 師		
教区顧問会		佐藤 謙一 師	5年	司教総代理
		今田 玄五 師		
		上杉 昌弘 師		
		祐川 郁生 師		
		佐藤 謙一 師		
		ライヤ 師		
	間野 正孝 師		事務局長	
	松村 繁彦 師			
教区司祭評議会				
	司教総代理	今田 玄五 師	3年	司教総代理
	事務局長	松村 繁彦 師		事務局長
	札幌地区 ◎	佐藤 謙一 師		地区長
		後藤 義信 師		
		湯澤 民夫 師		
		佐久間 力 師		
	北見地区	川上 剛 師		地区長代理
	釧路地区	内藤 孝文 師		地区長
	旭川地区	間野 正孝 師		地区長
		長尾 俊宏 師		
苫小牧地区	ライヤ 師	地区長		
	(小林 薫 師)			
函館地区	祐川 郁生 師	地区長		
教区宣教司牧評議会				
	司教総代理	今田 玄五 師	2年	司教総代理
	事務局長	松村 繁彦 師		事務局長
	札幌地区 ◎	佐藤 謙一 師		地区長
		後藤 義信 師		
		佐久間 力 師		
		川上 剛 師		地区長代理
	北見地区	内藤 孝文 師		地区長
	釧路地区	間野 正孝 師		地区長
	旭川地区	ナルチゾ 師		
		ライヤ 師		地区長
苫小牧地区	小林 薫 師	地区長		
函館地区	祐川 郁生 師	地区長		
教区委員会				
	財政委員会	松村 繁彦 師	2年	事務局長 教区会計
	青少年委員会 ◎	佐藤 謙一 師		
		佐久間 力 師		
		祐川 郁生 師		
	教区神学生養成委員会 ◎	佐藤 謙一 師		
		蓑島 克哉 師		
		ライヤ 師		苫小牧地区
		佐藤 謙一 師		札幌地区
	典礼委員会 ◎	祐川 郁生 師		函館地区
		今田 玄五 師		旭川地区
		内藤 孝文 師		釧路地区
		上杉 昌弘 師		北見地区
	広報委員会	松村 繁彦 師		
	聖書委員会	蓑島 克哉 師		
	社会委員会			
難民移住移動者委員会	レイナルド 師			
カリタス・ジャパン	松村 繁彦 師			
札幌カリタス	佐藤 謙一 師			
正義と平和協議会	蓑島 克哉 師			
エキュメニカル	蓑島 克哉 師			
月例関係				
	月例静修委員会	新海 雅典 師	2年	
		蓑島 克哉 師		
		佐久間 力 師		
その他				
	ハラスメント対応デスク 担当	担当司祭を置く		(非公表対応)

2021年度 カトリック札幌司教区本部会計 決算書

(2021年4月1日~2022年3月31日)

収入の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
分担金収入	82,520,000	82,440,000	
教区本部分担金(札幌地区)	55,500,000	55,500,000	
教区本部分担金(苫小牧地区)	5,890,000	5,790,000	減額1
教区本部分担金(旭川地区)	7,090,000	7,120,000	前年と二年分3 次年度払1
教区本部分担金(釧路地区)	3,310,000	3,300,000	増額1 減額1
教区本部分担金(函館地区)	9,030,000	9,030,000	
教区本部分担金(北見地区)	1,700,000	1,700,000	
一般寄付	14,500,000	14,423,623	白石墓地 会議室謝礼等
広報の日献金振替収入	600,000	276,441	広報の日献金収入の50%
難民移住移動の日献金振替収入	600,000	214,928	移住移動献金収入の50%
その他援助金収入	0	0	
受取利息配当金収入	1,000	278	
賃貸料	3,600,000	3,649,200	カトリック学園事務所家賃 電柱土地
保険料収入	0	0	
特定積立金取崩収入(一般口)	11,000,000	7,000,000	次年度繰越金を鑑み減額
特定積立金取崩収入(青少年)	0	0	
特定積立金取崩収入(管理口)	0	7,111,067	収益に係る人件費分
退職積立金取崩収入	0	0	
祭儀献金	36,500,000	31,380,820	司祭・フランシスコ会より
未収入金	0	0	
前年度未収入金	0	0	
雑収入	0	0	
計	149,321,000	146,496,357	
前年度繰越金	4,041,604	4,041,604	
合計	153,362,604	150,537,961	

支出の部			
勘定科目	予算額	決算額	摘要
宗教活動費支出	6,520,000	3,227,784	
祭儀費	100,000	1,640,780	久野勉師葬儀費等
図書資料費	200,000	124,853	カトリック新聞・NHK等
教区宣教活動費	4,920,000	636,400	正平協・青年の家等
国際協力活動費	1,300,000	825,751	移住移動者委
一般寄付金支出	21,800,000	21,046,410	フランシスコ会・マリア院(4-12月)
宣教省献金支出	1,000,000	1,000,000	
分担金支出	2,291,000	1,460,000	
中央協議会分担金	1,620,000	860,000	中央協より50%減額措置
東京管区裁判所経費分担金	171,000	100,000	
放送分担金	500,000	500,000	こころのともしび
本部援助金支出	0	0	
人件費支出	81,740,000	80,146,443	
本部司祭給与	55,310,000	50,247,000	司祭給与・車両手当
本部司祭法定福利費	3,930,000	4,765,501	
本部職員給与	18,900,000	21,895,520	本部5名 受付1名(北1条と折半)
本部職員法定福利費	3,600,000	3,238,422	5名
退職金	0	0	
運営管理費支出	21,784,844	21,154,255	
業務委託費	9,061,000	9,117,032	賄い 清掃費 会計ライセンス等
施設設備修繕費	1,000,000	883,300	司祭居室内装 館内看板変更等
備品修繕費	0	0	
墓地管理料	400,000	255,200	白石墓地プレート・樹木剪定
損害保険料	670,000	666,820	火災保険 賠償責任保険
消耗品費	1,000,000	861,910	
通信運搬費	800,000	1,011,384	
会議費	400,000	49,058	顧問会4回 司祭評3回 諮問委等
渉外費	0	273,352	長崎仙台叙階祝・弔電・祝電
慶弔費	200,000	0	
旅費交通費	500,000	234,480	司教広島出張 道内旅費 諮問委旅費
光熱水費	4,600,000	4,585,043	
租税公課	50,000	9,800	印紙等
報酬手数料	1,100,000	1,185,555	弁護士会計士報酬・振込手数料
賃借料	653,844	648,082	複合機・印刷機・電話機
車両費	400,000	464,911	ガソリン代
広報費	500,000	537,199	教区NEWS4回
福利厚生費	440,000	360,914	司祭職員健康診断等
雑費	10,000	10,215	町内会費等
建物取得支出	0	880,000	センター1F受付設置
機器備品取得支出	300,000	429,847	居室家具 耐火キャビ PC
建物付属設備支出	0	0	
退職金積立支出	1,000,000	1,000,000	4名分
営繕等積立金組入支出	15,000,000	15,000,000	
予備費	1,926,760	0	
計	153,362,604	145,344,739	
次年度繰越金	0	5,193,222	
合計	153,362,604	150,537,961	

新たな典礼への旅 ③



2022年待降節からミサ式次第と奉献文(ミサの中心的祈り)が変わります。この「改訂」について4回に渡って要点をお伝えします。

教区典礼委員会 委員長 上杉昌弘神父

この典礼の旅も3回目になりました。今年36号(1月号)①では、主な変更の理由を、37号(4月号)②では、新式次第開始までの行程などについて取り上げてきました。この38号(7月号)では、③回目として、変更される祈りの言葉を取り上げたいのですが・・・やはりその前に留意すべき事についてお知らせがあります。文言についてはは次号にまとめて?になるかもしれませんが、ご容赦ください。

6月下旬現在、カトリック出版各社から会衆用のミサ次第の冊子が出版され始めました。オリエンツ社のもの「ともにささげるミサ」は充実している反面、選択肢「または…」や注記が詳しいため、慣れないと実際には使いづらいかと感ずりますし、求道者はほぼ使えません。ここにきて札幌の光明社(フランシスコ修道会)から廉価(1100円)でしかも使い勝手の良い小冊子が出版されました。教会でそろえるのに適しているのではと思えますのでお勧めいたします(個人の考えです)。でも、見易いということも必要最小限以外は省いているという点でもあるので、やはりオリエンツのものも教会に1冊

は備えておくとういと思えます(共同司式用としても使えるので)。なお、司祭司式用の正式なミサ典書(の一部)は、10月に中央協議会から出版されると予告されています。これは祭壇に置く司式司祭用のもので、活字も大きい見易いものです。これも叙唱や公式祈願などは旧版(現行ミサ)と併用せねばならないという事情があります。

次に歌唱ミサについてです。主日ミサは本来、歌唱することが勧められていますが、現行のメロディーに新しい歌詞を入れ込むことは著作権などの問題があるでしょうし、印刷も時間を要します。新式次第開始の11月までに作編曲が整うとは到底思えません。今の時期(感染注意期間)は、ミサ歌唱よりも、歌わずに新しい言葉(と動作)に慣れていく時なのかもしれません。ちなみに新式次第になっても、現行のミサ曲は楽譜通り現行の歌詞のまま使用することができます(典書「典書音楽に関する指針5」)。とは言い、併用しすぎると新しい祈りを覚えるためには混乱を来すことでしょう。例えば、典書聖歌集ミサ曲では「主よあわれみたまえ、

主よあわれみたまえ」と歌い、歌わずに唱える際には「先主よ、いつくしみを。(会衆)いつくしみをわたしたちに」(新)いつくしみの賛歌」と異なるからです。

今月行われた全道司祭会議でも話題になりましたが、規範版第3版(今回日本版が準拠している)が世界的に発行されたのは20年前のこと。いろいろの事情から日本語翻訳版の承認が遅れたとは言え、今年の待降節に新式次第を開始する前に、急いで会衆が覚えたり、すらすらやるように準備することには無理があることでしょう。数度の読み合わせを焦らずに行い、実際のミサで祈りながら心を合わせつつ自然に口から出るようになるまでには数年、必要になるのではないかと思います。

※式文の変更箇所について学ぶためには、やはり中央協議会(日本カトリック典書委員会)発行の「新しい『ミサの式次第と第一』第四奉献文の変更箇所」(2600円)に当たることが一番です。変更理由についてよくまとめられているからです。(次号へ続く)

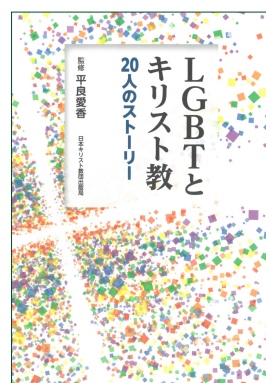


推薦図書

「LGBTとキリスト教」

20人のストーリー

監修 平良愛香



―世間で認められなくても、私はここに生きています。そして神は全てをご覧になって「大変良い」と言われました。私たちがすべてを「良い」と行ってくださる神をこれからも信頼します。―(本書214ページ)

本書は、月刊誌「信徒の友」で2019年度連載された「LGBTから学ぶ その多様性に見る神の愛」に8本の書下ろしを加え、書籍化されたもの。性的少数者の生きづらさと同時に、社会や教会で確実に体現しつつある希望について、LGBT当事者を中心とした20名がその体験を語る。また、差別や偏見を解消するための取り組みもコラムで紹介。LGBTへの理解や多様性を考える一助となる他、私たち全員が一人ひとり違い、神から愛される尊い存在であることを再認識させられる一冊である。(日本キリスト教団出版局・2000円税別)

ピース9の会二十周年記念
松浦司教講演会

ピース9の会は20周年を記念し、札幌教区正義と平和協議会の協賛を得て、2022年5月22日(日)午後一時半より、「今、改めて平和と憲法9条を考える」ロシアのウクライナ侵攻の中で」と題して松浦悟郎司教による講演会を開催しました。

松浦司教は当日のヨハネによる福音の朗読箇所について、「13章から17章までをキリストの遺言だ」と言われました。「私の平和をあなたにたに残し私の平和を与える」これはミサのあいさつの前の祈りで、いつも唱えられる言葉です。ミサ中には「主の平和」と何度も出てきます。しかし世界の至る所で紛争や戦争があり、天と地の間は隔たるばかりで絶望や無力感しかありません。

フランシスコ教皇は「平和を求めることはすべての人の使命です。それは常に絶え間なく困難と努力が求められ



ます。平和は暴力という岩だらけの土地に何とか咲こうとしている繊細な花に似ているからです」と言われました。平和は、どんなに願っても何もしないで待っているだけでは実現しないということなのです。「ピース9の会」は、これを主義主張に関係なく「私の問題」として主体的に取り組みましようという会で、シノドス的なビジョンに重なる部分もあると思います。

私たちはキリストの弟子となり平和を作るための新たな旅に出るようになりから促されているのではないかと思えます。平和を希望する友を見つけないが仲間を作り、やがて葡萄の木の枝のように繋がっていく壮大なテーマです。とても困難で知恵も忍耐も必要です。しかし、エフェソ信徒への手紙6章に書かれてるように、困難な冒険には必ず聖霊が導き助けてくれます。私はこれを、子どもたちに残す遺言にできるよう、ピース9の会の葡萄の木に、いつまでも繋がっていたいと思います。(ピース9の会をまなす・下川原瑞恵)

北海道カトリック中高連盟
春季委員会・総会

今年度が始まって早々の4月11日午後、道内にあるカトリック中学高等学校校長が集う春季委員会と、ひき続き



で総会(校長・教頭・宗教科教員を対象とする)が開催されました。総会には全道より集まった20名に加え、オンラインでも4名が参加しました。

冒頭に勝谷司教の講話「ミッションの意味するところ」では、キリストの使命を継承する使徒の役割と、さらにそれを受け継ぐ教会の使命について触れられ、ミッションスクールも同様に人々へ寄り添いながら社会へ出向く使命をもつことを強調されました。

道内8カ所にあるカトリック学校ですが、小さな力を合わせつつ、連繋協力のために、それぞれの使命を果たしてゆきたいと確認し合えた機会となりました。(カトリック札幌司教区カトリック教育担当・品田典子)

今回は、5月に発表された委員長メッセージをお届けします。包括的で公正な

難民保護制度の確立を
—保護を必要としているのは
ウクライナ避難民だけでは
ありません—

毎日ウクライナの惨状が報道される中、みなさんも一日も早い平和を願っておられることでしょう。

そのような中、日本

本政府は戦火を逃れたウクライナの避難民の方々を受け入れることを決定し、就労可能な特定活動一年の在留資格を与えることが表明されました。さらに各自

治体や民間レベルでも避難民の方々に対する定住支援の輪が広がっています。それは大変喜ばしいことであり、ウクライナ避難民の方々が今後も日本国内で安心して暮らせるような環境が継続して提供されるよう期待したいと思います。

ともに生きる
ウクライナから
見えてきたもの

ウクライナから
見えてきたもの

り受け入れることをお願いしたい」と訴えられました。

今こそ、日本の難民認定制度を改善し、日本に逃れてきた人々を受け入れる体制を作るときです。ウクライナ避難民の受け入れを機に、助けを必要としている人々すべてを受け入れることのできる包括的で公正な難民保護制度の確立を強く望み、求めていきたいと思います。

しかし、支援が必要であるのはウクライナ避難民だけではありません。多くの国々からいのちの危険を感じて保護を求めてくる人がいます。ところが、日本の難民認

定制度はたいへん厳しく、認定率は長年「パーセント未満で、国際基準からかけ離れた「難民鎖国」の状況が続いてきました。そのため、難民認定を求めながら不安定な立場のまま日本に滞在し、収容や送還のおそれのうちに暮らしている方々も多くおられます。今回のウクライナ避難民への対応と比べて、格差はあまりにも大きい現状があります。

難民の方々の置かれている状況に心を痛めておられます。2019年の来日の折には「青年との集い」において「日本へ逃れてきた人々をよ

日本カトリック難民移住移動者委員会 委員長 山野内 倫昭

北国のシスターズ

世に在って奉獻を生きる

聖マリア在俗会



本会は、教皇ピオ12世によって発布された在俗会に関する教令「プロヴィダ・マーテル・エクレジヤ」に示された信徒としての新しい奉獻の道を、ゲオルグ・ゲマインタ神父（神言修道会）によって1954年に創立されました。その後、1980年には聖座法による教皇直轄の在俗会として承認されています。

信賴し、聖靈の恵みに支えられて、どのような仕事に従事していても、教会と一致して福音を宣べ伝え、パン種が美しいパンを作る様に、塩が少量だからこそ料理に良い味を付ける様に、目立たないが力強い働きによって、世をキリストのものに変えて行くことを目指して、社会のあらゆる分野で働いています。

会員の多くは高齢者となりましたが、祈りと愛の業によって、キリストに一致し、生活の証しに努めています。

【在俗会】

会員は、福音的勧告に従う三誓願と使徒職を会憲に従って誓いますが、あくまでも奉獻された信徒であり、シスターではありません（教会法 第710〜711）。会員は、社会の一般的な生活条件のもとで生活し、世の諸価値を大切にしながら、すべてに福音の精神を浸透させる様に召されています。ミサと教会の祈りを中心とした日々の祈りが原動力ですが、それは日常の様々な出来事や交わりの中に、神の語りかけを深く聴き取り、聖マリアに倣って生きることにあります。

【共同体】

同じ使命に召された会員は、各地に散在しますが、信仰に基づく一致とよきうだいな愛の交わりによって、互いに支え合い、助け合いながらも、世に在る自立した生活を目指しています。

日本国内の会員は百数名ですが、その内札幌教区には4名の会員が所属しています。

聖マリア在俗会

本部 〒4606-0803

名古屋市昭和区南山町6-1

電話 052-833-1-8899

【使徒職】

いつも私達と共にいて働かれる主に



右:名古屋の本部 左:仙台の会員と共に一日黙想会2022年6月14日

訃報

◆マリア会（光星修道院）



フランシスコザビエル 富來正博神父

急性心筋梗塞のため2022年4月25日(月)午後5時47分、入院先の白石記念病院にて神様のものと召されました。享年89歳。

マリア会管区長、光星学園理事長・校長などを歴任。札幌教区においても、小教区のサポーター、司祭月例会議や教区行事ミサに欠かさず参加され、深い交わりを持たせていただきました。

【略歴】

- 1933年2月11日 福岡県生まれ
- 1952年3月25日 初誓願
- 1958年7月31日 終生誓願宣立
- 1964年3月14日 司祭叙階

白石共同墓地についてお願い

お盆を控え墓参の機会も増える頃を迎えました。納骨式及び墓参の際に飾る供花等は、終了後放置せず必ずお持ち帰りくださいますよう、ご協力をお願いいたします。できるだけゴミ置き場に捨てず美化にご協力ください。

あとかたり 編集後語

函館に赴任して約一か月が過ぎました。30年ぶりの函館での生活です。久々に、子供たちが家々を巡り歩く7月7日の七夕を体験しました。また、先日、長万部よりも函館の日の入りが4分早いことがわかり、ことのほか北海道の「しつぽ」の曲がり具合の大きいのにも気付かされました。

札幌から全道を見たり、聞いたり、考えたりしていたのと、函館からそうすることの距離感の違いに気がつくされました。

元町教会の司祭館の窓から見える、津軽海峡越しの本州の山々の方が近いのです。主日の集会祭儀後の茶話会で懐かしく語り合う青春時代の東京の方が札幌よりはるかに近いのです。札幌を奥地と感ずる感覚がわかるような気がします。

そうであるからこそ、「札幌教区ニュース」を通じた具体的な情報、この距離感を埋める大切な役割を担っていることに改めて気付かされること次第です。

(稲田達也)